クラシック音楽と私

有限会社オルテンシア　代表取締役
雨宮 睦美

東京フィルゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第20回は、法人後援会員として東京フィルをご支援いただいている有限会社オルテンシア代表取締役、雨宮睦美様。多忙な生活のなかでも東京フィルの定期演奏会へは欠かさずご来場くださっている雨宮様に、音楽とともにある充実した日々について綴っていただきました。

2歳半でピアノを始めました。音大ピアノ科を出た母は、戦後で初期教育を満足に受けられなかった後悔から、娘に託す思いが強かったようです。ピアノは嫌いではなかったし、早く始めたおかげで音感がよいのと初見が効くのはラッキーでしたが、練習熱心だったのは幼いうちだけ。CDや演奏会にも興味なく、ロックやポップスのバンド活動のほうが楽しかった。進路決定を控えた高校時代、「私はそこそこ上手かもしれないけど、この程度のレベルの子は全国に沢山いる。仮に音大に入れたとして私の実力はそこ止まり」などと言ったものだから、母は激怒しましたが、結局私は意志を貫いて一般大学に進み、就職する頃にはピアノに触ることもなくなっていました。

20代半ばを過ぎた頃。仕事に追われ、余裕や潤いがない中で突然「クラシックが聴きたい」と思います。何を聴けばいいかわからず、音楽に詳しい同僚に相談すると、協奏曲から室内楽まで名曲名演を選んで、カセットテープ（時代ですね）を作ってくれました。ピアノ曲以外ほぼ聴いたことがなかった私は、「弦楽器の音色って

職場の同僚が作ってくれたという名曲名演のカセットテープで弦楽器の音色に開眼！

素敵！ 私もヴァイオリン弾いてみたい」と口走り、すぐ先生が見つかって、30歳を目前にして習い始めました。そこからの茨の道と言ったら…構え方がおかしい、どうすれば力が抜けるの、なんで弓が曲がるの、この変な音は何、先生にはなぜ私の苦悩が伝わらないの…語りだしたらキリがないので割愛しますが、要するに、大人になって楽器を始める苦労は並大抵のものではない、ということです。

やがて友人に誘われてアマチュアオーケストラの見学に行き、オーディションもなかったのでオーケストラ経験ゼロのまま入団。これが15年ほど前のことでした。今では忙しい忙しいと言いながら2団体掛け持ちしています。

不思議なことに、時間と若さがたっぷりあって、お金も親が出してくれた頃は乗り気でなかったクラシックの世界に、今や時間とお金をつぎ込んで身も削り、へとへとになりながら浸っています。でもこれが楽しいのです。東京フィルの演奏会へ通うことも、大きな刺激と勉強になっています（東京フィル支援のきっかけを教えてくれたのも、かつてカセットテープを作ってくれた方で、私は一方的に音楽の師と仰いでおります）。ピアノも、技術的には後退していても、今の方が情感を込めて弾けます。そして、ひとりでは絶対に奏でられないオーケストラの音の渦に身を任せる喜びを知ってしまったので、もう少し頑張ってみようかなあ、と思うこの頃なのです。

2023年夏の発表会ではモーツァルトのソナタを演奏

雨宮睦美（あめみや・むつみ）／マーケティングプランナー、モデレーター。
1966年東京生まれ。青山学院大学卒業。株式会社博報堂勤務を経て、2001年有限会社オルテンシアを設立し、現在に至る。趣味はヴァイオリン演奏。中央フィルハーモニア管弦楽団、友好音楽祭オーケストラに所属。